

2026年2月12日

暦の上では春を迎えつつも、なお寒さの名残を感じる頃となりました。

昨年は、雑草科学の研究・教育・普及等のさまざまな場面で多くの成果が生まれました。学会としても大会・シンポジウムの開催、会誌の発行、若手育成プログラムの充実に努めてまいりました。これらの取り組みが滞りなく進められましたのも、ひとえに会員の皆さまのご支援とご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

今期は、新たに事業検討委員会を立ち上げ、学会活動の将来像について幅広く議論を重ねてまいりました。その詳細についてはここでは割愛いたしますが、事業検討委員会および理事会での検討を経て、和文誌『雑草研究』は2027年度（令和9年度）より冊子体を廃止し、オンラインジャーナルへ一本化することといたしました。『雑草研究』は51巻1号からJ-STAGEのオンラインサイトにて全文公開しており、オンライン化から20年近く経過しています。現在では、多くの会員の皆さまにオンラインでご利用いただいていることと思います。

オンライン化により、論文はこれまで以上に迅速に公開され、かつ無料で閲覧できるようになりました。これにより、国内外の研究者や技術の普及に携わる方々が必要な情報に即時にアクセスできるようになり、研究成果の社会還元が一層進展しました。一方で、オンラインジャーナルの普及に伴い、冊子体の受領を目的として加入される団体会員は年々減少しています。また、紙資源の節約は、地球環境の保全や循環型社会の実現に資する取り組みとして、より高い説明責任と誠実な活動が求められる一般社団法人にとって、極めて重要な社会的責務となっています。完全オンラインジャーナル化は、印刷・配送に伴う経費削減だけでなく、環境負荷の低減にもつながり、持続可能な学術情報発信を実現するための重要な一歩であると考えております。その一方で、冊子体の到着を楽しみにしてくださった会員の皆さまには、閲覧方法の変更などご不便をおかけする場面もあるかと思えます。学会としては、オンライン閲覧方法の案内やサポート体制の整備を進め、できるだけスムーズに移行できるよう努めてまいります。また、『雑草研究』には、報文に加えて地域研究会・会議報告、本会記事・お知らせなどを掲載してまいりました。これらの情報は、学会ホームページによる情報発信を強化して、これまで以上にタイムリーでアクセスしやすい形でお届けできるよう取り組んでまいります。

現執行部の任期も、3月下旬に開催予定の代議員総会終結時までとなります。今後は、黒川新会長をはじめとする新しい執行部のもと、雑草科学の発展と社会実装の一層の推進に向け、会員の皆さまとともに力を合わせて進めていきたいと考えております。

年度末を迎え、皆さまにおかれましては何かとお忙しい時期かとは思いますが、どうかご自愛のうえお過ごしください。本年も、皆さまとともに雑草科学のさらなる発展に向けて歩んでいける

ことを心より楽しみにしております。

これからも、本学会への変わらぬご支援とご協力を賜り、若手からベテランまで誰もが参加して楽しい学会へと皆さまとともに育てていければ幸いです。

会長 小荒井 晃